

The Tokyo Tanuki Times

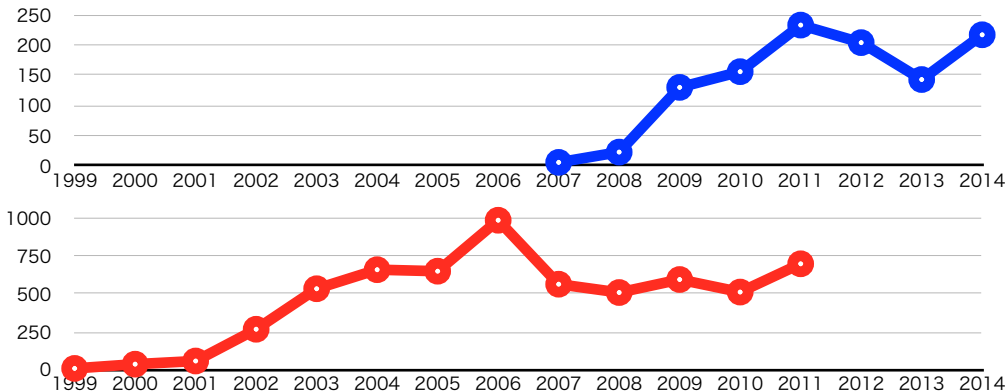
東京タヌキタイムズ

2015年10月号 通巻82号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

どうする？ハクビシン・アライグマ対策 情報無ければ対策もできず



(上)東京タヌキ探検隊！のハクビシンの収集情報数。メールのみ、その年に届いた目撃情報のみの集計。ハクビシンの目撃情報収集を本格的に開始したのは2008年以降なのでそれ以前は機能していない。(下)東京都全域でのハクビシンの農業被害額(万円)(東京都環境局資料より)。

東京都環境局のホームページで「東京都アライグマ・ハクビシン防除実施計画」という文書が公開されています。文書の内容からすると2013年に作成されたもののようですが、なぜか以前読んだ記憶がありません。内容が無意味だったので忘れてしまっていたのかもしれませんが、いつものことながら都が私に意見を求めてきたこともありませんでした。

対策の具体案は無し

この文書には驚くような対策案は何も書かれていません。「捕獲体制を整備」とか「計画的防除を実施」とか書かれていますが、いつどこでといった具体的なものはありません。捕獲の方法も従来通り鳥獣保護法に従ったもの(箱ワナを使用する)で、新しい方法が示されているわけでもありません。総合的な、概論的なことしか書かれていないのです。

また、捕獲は「区市町村を中心に地域住民、農業者、関係団体、研究機関等が連携して取り組む」とされ

ています。つまり都は金をばらまくか後ろで応援しているだけということなのでしょう。これでは任された自治体・住民も大変です。

そもそも都はハクビシンやアライグマがどこにどれだけ生息しているかも把握していないようで、これでは計画の立てようもありません。情報量が対策の基盤にもなることを認識していただきたいものです。

進出時期を再検討すると

計画の批評はさておき、この文書には別紙として捕獲や被害の状況を載せた資料もあります。上に表示したグラフはその中のひとつで、都全域でのハクビシンの農業被害金額を表しています。このグラフを見ると、5年ほどで生息数のピークに達しているらしいことがわかります。これはちょっと速すぎるようにも思えます。被害額が増えている時期の2003年前半はSARS(重症急性呼吸器症候群)騒動が起こっていました。この時、感染源としてハクビシンが犯人

とされたため、ハクビシンの知名度が一気に上がりました。「そうか、あれはハクビシンだったのか」と気付いた人がいたため計上された被害額が増えたのかもしれませんが。その場合、もっと以前の1999年代後半から都内への進出が始まっていたと考えられそうです。

ハクビシンが進出した後にも注目してください。被害額はある程度まで増えた後は横ばいです。目撃情報数も似たような傾向で、2倍、3倍と増え続けているようなことはありません。私の印象では、23区内でのハクビシンの生息数は既に上限近くまで達しているように見えます。ですのでハクビシンが危険だと大げさにあおりたてる必要もないのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>